

■ 書 評 ■

《神経心理学コレクション》
ふるえ [DVD 付]

柴崎 浩, 河村 満, 中島雅士 ● 著
山鳥 重, 河村 満, 池田 学 ● シリーズ編集

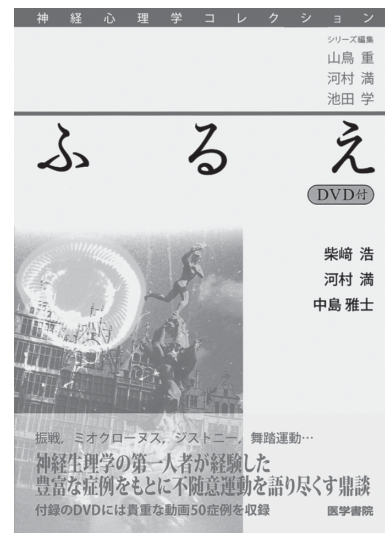
浅ノ川総合病院脳神経センター常勤顧問／金沢医大名誉教授 廣瀬源二郎

神経心理学コレクションシリーズとして出版された『ふるえ』は極めてユニークである。神経心理学とは大脳皮質の高次機能を脳の構築と関係づける学問であり、医学書院のこの神経心理学コレクションも言語、行為、知覚から意識や記憶まで多岐にわたる人間の高次機能を新しい切り口でとらえ直すシリーズとして発行されたものである。

今回の『ふるえ』は振戦のみならず、ミオクロームス、ジストニー、舞踏運動などいわゆる不随意運動について臨床神経生理学の第一人者である柴崎 浩先生が経験された症例の動画を提示して説明し、2人の聞き手が問いかけ、コメントする形でつくられている。多くは基底核、小脳の機能障害である不随意運動を神経心理学シリーズで取り上げた点は今までにない発想である。ただ不随意運動はすべて運動障害であり、その多くはどこに原因があろうと運動野を中心とする運動調節中枢が最終的に関与して脊髄前角細胞を発火させる final common path を考えればこのユニークさも理解できる。

不随意運動はその異常運動を観察して今までの分類に従い診断するの

が一般的であるが、その病態生理は複雑であり、最近の電気生理学的検査法や画像診断を加えることでその発生機序をも解明できる時代となってきた。柴崎先生は jerk-locked averaging 法を開発して皮質性および皮質反射性ミオクロームスの病態生理を明らかにされた神経生理学者である。そのためこの本ではミオクロームスはもちろんのこと、振戦や他の不随意運動についても、表面筋電図、脳波、脳磁図などから筋放電スペクトラムなどを記録して、多彩な臨床神経生理学的手法により解析している。それらのデータを駆使して、それぞれの不随意運動を動画による臨床症状だけでなく病態生理学を詳しく解説することで正確に診断できることを教えてください。今までの神経心理学コレクションシリーズの読者にはやや異なるアプローチで解説されており、取っ付き難いかもしれないが、不随意運動を持つ患者を診察する立場にある神経内科医には不随意運動を病態生理学にのっとり理解するには極めて優れた教科書である。内容は他にジストニー、アテトーゼ、舞踏運動、パリズム、ジスキネジーがあり、さら



に restless leg syndrome, 末梢神経障害に合併する不随意運動にもおよび動画 48 例が同じアプローチで鼎談は延々と進んでいく。最後にこのシリーズ編集者の 1 人である河村満氏の肢節運動失行の 2 症例の動画も加えられている。

この鼎談の導師である柴崎先生は最近ではすべての不随意運動を無理やり既存の分類に当てはめようとはせずに、その臨床像を正確に記載することこそが肝要であると巻頭で述べられており学会などでも同様の考えを話しておられる。まさにすべてを極めた臨床生理学者の述懐である。神経心理学に興味を持つ人だけでなく、むしろすべての臨床神経内科医必読の書であり、その刊行が神経心理学領域だけでなく広く知れ渡ることを願うものである。

A 5 頁 152 2011 年
定価 5,460 円
(本体 5,200 円 + 税 5 %)
[ISBN978-4-260-01065-8]

医学書院刊